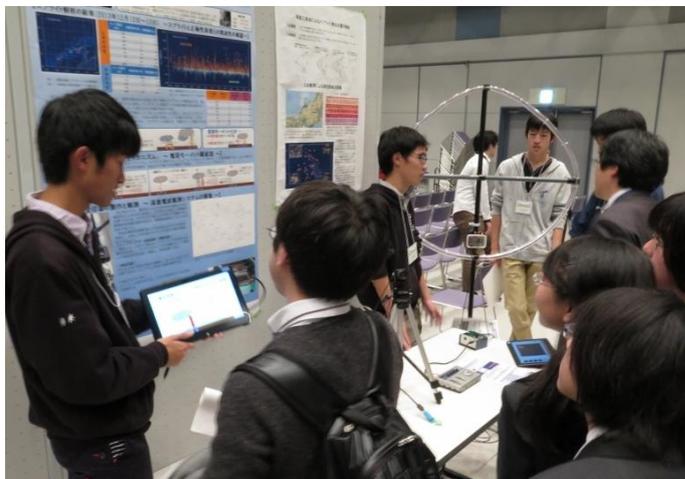




## 地球電磁気・地球惑星圏学会 中高生による ポスターセッションとアウトリーチ（社会貢献）事業に参加

11月2日（日）松本市キッセイ文化ホールで開催中の地球電磁気・地球惑星圏学会に天文気象部の1, 2年生男女6名の生徒が参加して、ポスター発表をしてきました。また、ポスター発表の後、同所で催された地球電磁気・地球惑星圏学会アウトリーチ活動、「サイエンスカフェ」にも参加してきました。

大学や研究機関の800名あまりの研究者が集っている学会会場で専門家に交じってポスター発表させていただきました。発表では、本校に整備されたばかりのタブレットパソコンを動画のプレゼンテーションなどに活用しました。会場には専門家以外にも、飯山・飯山北・長野高校・屋代高校・松本深志高校・屋代高附属中学の生徒も参加しており、屋代高附属中学生は「流星を学校と北極で同時観測する」という面白い研究を発表していました。本校生徒も、沢山の研究者から厳しくも温かいご助言を頂きとても有意義な時間を過ごすことができました。



専門家や屋代高校付属中学生徒にタブレットを活用してプレゼンテーションする天文気象部の部員たち

## 県内中高校生がたくさんの方女性研究者らにご指導いただく



国立極地研究所の片岡准教授（右）と、3月まで南極で越冬してオーロラを観測していた東大大学院福田さん（左）のお話に耳を傾ける本校天文気象部1年生

独創的な撮影装置で記録された素晴らしいオーロラの写真や動画、その装置で得られた高速で動くオーロラの発見やデジカメによる発光高度分布測定手法、オーロラの微細構造のお話を頂きました。講演の後には、屋代、飯山、飯山北などの生徒から積極的な質問が出され、有意義なアウトリーチ行事で地球電磁気・地球惑星圏学会の皆さんに感謝します。

関華奈子准教授は地元出身。2011年には文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞されている宇宙プラズマ物理学等を研究する気鋭の若手女性研究者。学会では、福田さんや関准教授以外にもたくさんの若手女性研究者が発表されている姿が印象的でした。

「サイエンスカフェ」では、学会の若手研究者十数名の方とオーロラなど地球電磁気についてケーキを食べながら懇親することができました。

本校1年生に話し相手となって頂いた東京大学大学院博士課程の福田陽子さんは佐渡出身。高校時代からのオーロラ研究の夢を果たすために目標大学に進学し、現在はアラスカ・フェアバンクスでのオーロラ研究に向けて準備中とのこと。そのうえ南極のオーロラを見たくて南極観測越冬隊員となり、今年3月まで1年4か月南極で観測をしてきたとのこと。すごい！

また、名古屋大学太陽地球環境研究所准教授の関華奈子先生には、オーロラの発生原理についての丁寧な講演をいただき、国立極地研究所片岡龍峰准教授には、



高校生に質問に丁寧に答えられる関名古屋大学准教授